

福井県におけるウタツグミの2例目となる標識記録

澤 祐介*・佐藤 文男・田原 偉成・三原 学

The second record of Song Thrush banded in Fukui Prefecture, Japan

Yusuke SAWA*, Fumio SATO, Hideshige TAHARA, Manabu MIHARA

(要旨) 2022年11月2日に福井県丹生郡越前町笈松にある環境省織田1級鳥類観測ステーションにおいて、ウタツグミ幼鳥1羽が捕獲、標識された。本個体は福井県で2例目となる標識記録であり、秋の渡り時期に本州日本海沿岸部に一定数のウタツグミが迷行している可能性が示唆された。

キーワード：鳥類標識調査，幼鳥，環境省織田1級鳥類観測ステーション，*Turdus philomelos*

ウタツグミ *Turdus philomelos* はヨーロッパ西部からバイカル湖にかけて繁殖し、ヨーロッパ、アフリカ、西南アジアで越冬する (Brazil, 2009)。日本への飛来記録はこれまで複数あるが (渡辺ほか, 2019)、日本産鳥類目録第7版では「複数の観察事例があるが、確実に撮影されているのは都会周辺であり、自然分布への疑問は解消されたと言えない。」との理由から検討中の種として取り扱われている (池永, 2012; 日本鳥学会, 2012)。しかし、近年、東京都、大阪府 (渡辺ほか, 2019) など都市部以外にも、北海道 (青木ほか, 2014)、広島県 (山階鳥類研究所, 2014)、長野県 (松宮, 2020)、神奈川県 (渡辺ほか, 2019) など郊外において自然分布の迷行個体と考えられる記録が増えている。

福井県では、これまで福井県越前町で実施された鳥類標識調査において2012年10月に1羽 (性別不明・幼鳥) が捕獲、標識されている (山階鳥類研究所, 2014)。今回、2022年11月に同地において2例目となるウタツグミ1羽 (性別不明・幼鳥) が捕獲・標識されたのでここに報告する。

日時・場所

本個体は、2022年11月2日午前9:00に、福井県丹生郡越前町笈松にある環境省織田1級鳥類観測ステーション (35°58'N, 136°01'E) で実施されている鳥類標識調査中に捕獲された。同日にツグミ類は、アカハラ *T. chrysolaus* 4羽、マミチヤジナイ *T. obscurus* 5羽、クロツグミ *T. cardis* 1羽、シロハラ *T. pallidus* 21羽が捕獲されている。捕獲後は、鳥類標識調査用の環境省標識足環を装着し、形態計測後、速やかに放鳥した。

織田1級鳥類観測ステーションは、標高約460mに位置し、周辺はスギ *Cryptomeria japonica* やヒノキ

Chamaecyparis obtusa の植林地が多い。鳥類標識調査は、落葉広葉樹が優占する尾根筋を2.5m程度の樹高に刈りそろえた場所にかすみ網を設置して行った。かすみ網設置場所周辺にはマルバマンサク *Hamamelis japonica*、ミズナラ *Quercus mongolica*、コナラ *Quercus serrata*、コシアブラ *Acanthopanax sciadophylloides* 等の落葉広葉樹が (米田・上木, 1996)、低木層にはエゾユズリハ *Daphniphyllum macropodum* var. *humile* やヤブツバキ *Camellia japonica* などが優占している。同ステーションは、古くから小鳥類のかすみ網罟を行う鳥屋場として使用されていたものを、1973年より鳥類標識調査の調査地として利用したものである。調査地のある丹生山地は北陸地方の秋の小鳥類の渡りのルート上にあたり、9月中旬から11月初旬にかけて多くの渡り鳥が見られる。特に10月から11月にかけては、マミチヤジナイ *T. obscurus*、シロハラ *T. pallidus*、クロツグミ *T. cardis*、アカハラ *T. chrysolaus* 等のツグミ類、アオジ *Emberiza spodocephala* 等のホオジロ類が多く捕獲される (環境省自然環境局生物多様性センター, 2023)。

形態

捕獲された個体は、顔の周囲は薄く黒褐色の斑点と顎線があり、目の周囲は白色に縁どられており、目先はバフ色がかった (図1a)。上面はオリーブがかった茶褐色で (図1a, b)、大雨覆、中雨覆の羽先はバフ色の斑がみられた (図1a, b)。下面は胸から脇腹にかけてはバフ色、喉と腹は白色、胸から脇腹、腹にかけて逆V字型の黒褐色の斑点模様がみられた (図1c, d)。翼下面は淡い橙色で、尾羽には白色はなく、跗蹠部は肉色であった (図1c, d)。これらの特徴は、Clement & Hathway (2000) のウタツグミの記述と一致した。

*公益財団法人山階鳥類研究所 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115

*Yamashina Institute for Ornithology, 115 Konoyama, Abiko City, Chiba 270-1145, Japan

ウタツグミの類似種として、クロツグミの雌、ワキアカツグミ *T. iliacus*, チベットウタツグミ *T. mupinensis*, ヤドリギツグミ *T. viscivorus*などが挙げられる。クロツグミの雌は、薄い黄色のアイリングがあること、胸の側面から大雨覆まで橙色から赤褐色がかったバフ色であること、大雨覆、中雨覆に明瞭な斑が入らないことから本個体の特徴とは異なる (Clement & Hathway, 2000)。ワキアカツグミは、頭部に明瞭な白い眉斑があること、下翼と側面に赤い色があることから本個体とは異なる (Brazil, 2009; Clement & Hathway, 2000)。チベットウタツグミは、耳羽の後縁に三日月形の黒褐色の斑点、目の下に垂直な黒いストライプがあること、大雨覆、中雨覆の先端部の斑点は白であること、胸の縦斑はよりはっきりしていることから、本個体とは異なる (Brazil, 2009; Clement & Hathway, 2000)。ヤドリギツグミは、脇羽、大雨覆は白く、尾は長く外側の尾羽には白い斑がある点で本個体とは異なる (Svensson, 2011)。以上の点から本個体はウタツグミであると同定した。

ウタツグミは雌雄同色であることから、本個体の性別は不明であった (Svensson, 2011)。年齢については、外側8枚の大雨覆は褐色でより目立つ三角形の先端があり未換羽の幼羽であること (図1b)、また尾羽先端が細くとがっていることも幼鳥の特徴に一致したことから幼鳥とした (図1d, Svensson, 2011)。計測値は、表1の通りであり、自然翼長はSvensson (2011) による記述の範囲内 (109-123mm) であった。

織田1級鳥類観測ステーションでは1973年から現在にかけて、秋の渡り時期を中心に、鳥類標識調査による定量的なモニタリングが実施されており、鳥類相やその経年変化を明らかにしてきた (米田・上木, 2002)。また、カラアカハラ *T. hortulorum*などの稀な迷鳥が記録されている (山階鳥類研究所, 2013)。ウタツグミはこれまで日本海側での確実な記録はなかったが、織田1級ステーションでは2012年10月27日に福

井県で初めて捕獲、標識された (表1)。ウタツグミが捕獲された日には、アカハラ2羽、マミチャジナイ48羽、クロツグミ4羽、シロハラ42羽が捕獲されていた。今回も多数のツグミ類が同日に捕獲されていることから、ウタツグミは他のツグミ類の群れと一緒に行動していた可能性が考えられる。本報告は福井県内における2回目の記録となるが、このことは福井県をはじめとする日本海側に、他のツグミ類の群れに混じりウタツグミが一定数迷行している可能性があることを示唆する。今後も、織田1級ステーションにおいて渡り鳥の調査拠点として定量的なモニタリングを継続することで、福井県における鳥類相の知見の蓄積に貢献することができるであろう。

謝辞

福井市自然史博物館 学芸員の出口翔大氏には本報告を執筆する機会をいただいた。標識放鳥・回収データの利用については山階鳥類研究所より許可を取得済みである (許可番号: 山階保全第5-38号)。ここに厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 青木則幸・真野徹・竹内尚子, 2014, 日本国内におけるウタツグミ *Song Thrush Turdus philomelos*の初標識記録. 日本鳥類標識協会誌, **26**: 34-38.
- Brazil, M., 2009, Birds of East Asia. Christopher Helm, 527p.
- Clement, P., & Hathway, R., 2000, Thrushes. Christopher Helm, 392-395.
- 池長裕史・川上和人・柳澤紀夫, 2012, 検討種の取り扱いについて. II. 日本鳥類目録改訂第6版で「検討中」とされた種および亜種の検討について. 日本鳥学会誌, **61**: 166-176.
- 環境省自然環境局生物多様性センター, 2023, 令和4年度鳥類標識調査委託業務 2021年 鳥類標識調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 73.
- 米田重玄・上木泰男, 2002, 環境庁織田山一級ステーションにおける標識調査-1973年から1996年における定量的モニタリング結果-. 山階鳥類研究所研究報告, **34**: 96-111.

表1. 今回までに日本国内で捕獲されたウタツグミの計測値(体重を除き, 単位はmm)

Table 1. Measurements of Song Thrush banded in Japan (unit: mm except weight)

捕獲日 Banded date	捕獲地 Place	環境省足環 Ring No.	性別 Sex	年齢 Age	自然翼長 Natural Wing L.	尾長 Tail L.	ふしよ長 Tarsus L.	露出嘴峰長 Exposed Culmen	体重(g) Weight (g)	出典 Literature
2011/10/1	北海道根室市 Nemuro, Hokkaido	4C-44970	不明 Unknown	幼鳥 Juvenile	117.0	81.0	33.6	17.4	73.7	青木ほか, 2014
2012/10/27	福井県越前町 Echizen-cho, Fukui	4C-82660	不明 Unknown	幼鳥 Juvenile	113.4	84.0	31.5	19.2	57.0	山階鳥類研究所, 2014
2012/11/4	広島県呉市 Kure City, Hiro- shima	4C-85309	不明 Unknown	幼鳥 Juvenile	115.4	84.0	32.4	18.4	66.9	山階鳥類研究所, 2014
2022/11/2	福井県越前町 Echizen-cho, Fukui	4D-51730	不明 Unknown	幼鳥 Juvenile	111.8	82.3	33.1	19.0	67.5	本個体

- 松宮裕秋, 2020, 長野県における厳冬期のウタツグミの記録. *Strix*, **36**: 47–52.
- 日本鳥学会, 2012, 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 438p.
- Svensson, L., 2011, ヨーロッパ産スズメ目の識別ガイド. 村田健訳, 尾崎清明・茂田良光監訳. 文一総合出版, 343p. (原著: Svensson, L. 1992. In English).
- 渡辺良樹・榎本千鳥・飯島博幸, 2019, 神奈川県相模原市におけるウタツグミ *Turdus philomelos* の記録. 日本鳥学会誌, **68**: 85–90.
- 山階鳥類研究所, 2013, 平成24年度 環境省委託調査鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 84–85.
- 山階鳥類研究所, 2014, 平成25年度 環境省委託調査鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 42–43.

Abstract

A juvenile Song Thrush was captured and banded at Ota Bird Banding Station located in Echizen-cho, Fukui, Japan on November 2, 2022. This is the second banding record of Song Thrush in Fukui Prefecture. It was suggested that a certain number of Song Thrush migrate to coastal area along the Sea of Japan in Honshu Island as irregular visitors.

Key words

Bird Banding, Juvenile, Ota Bird Banding Station, *Turdus philomelos*

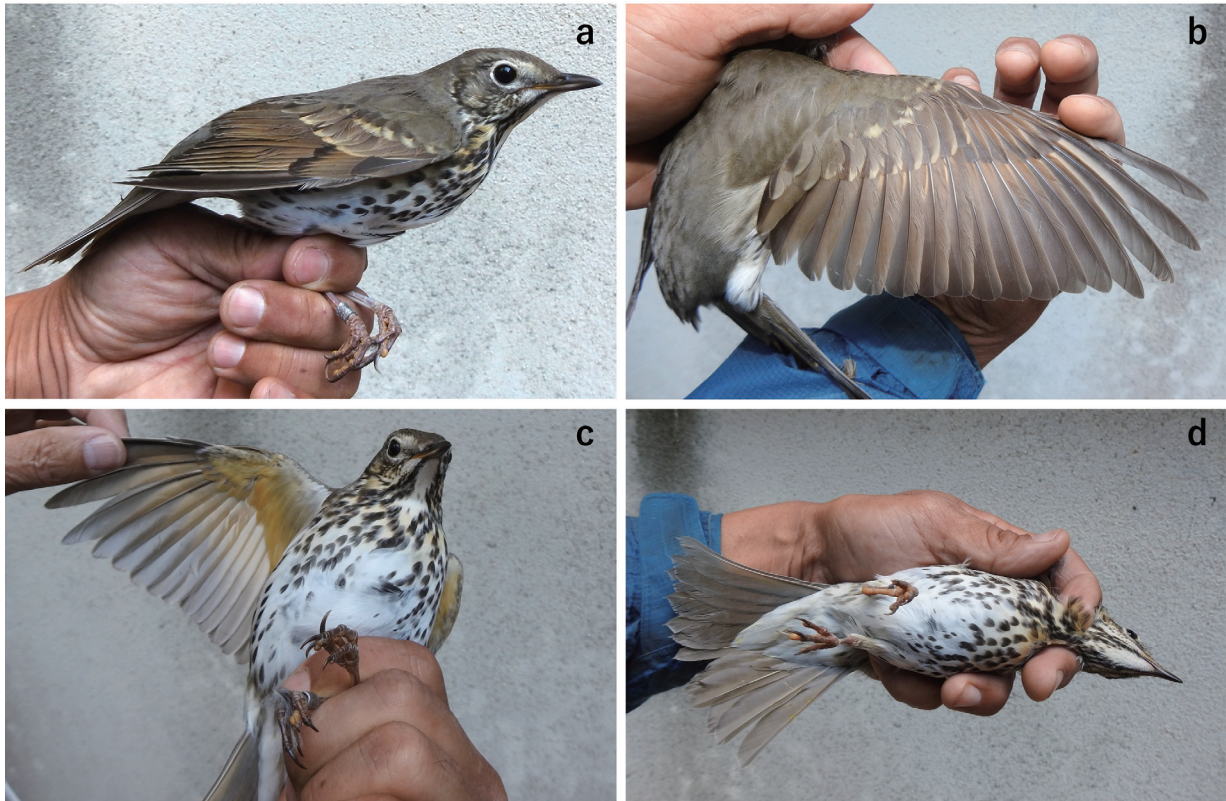


図1. 2022年11月2日に福井県越前町で捕獲されたウタツグミ幼鳥のa) 全身, b) 翼上面, c) 翼下面, d) 体下面及び尾羽下面.

Fig. 1. a) Entire body, b) upper wing, c) under wing, and d) under parts and tail of Song Thrush banded on November 2, 2022, at Echizen-cho, Fukui, Japan.

